

没後三十二年

を語ること
VIII

土方巽

肉体の叛乱から、五十年。

THE 32ND ANNIVERSARY OF HIJIKATA TATSUMI'S DEATH:
TALKING TOGETHER ABOUT HIJIKATA TATSUMI

2018 年 1 月 22 日 [月] 16:30~20:30

慶應義塾大学 (三田) 東館 G-Sec Lab 参加無料 入退場自由

ゲスト講師 | 中村 宏 (19:00~20:00 予定)

恒例の「土方巽を語ること」を開催します。通例は命日(1月21日)の開催ですが、2018 年は同日が日曜日ということで、翌 22 日の開催となります。

2017 年もまた、世界での舞踏への関心の高まりに応じて、土方巽アーカイヴに多くの国内外からの来訪者がありました。しかし一方では、土方巽とともに舞踏シーンをつくってきた舞踏家に別れを告げることとなりました。7 月に石井満隆さん、10 月に和栗由紀夫さんが逝去されました。この日は、土方巽に加えお二人を偲びます。

そして、2017 年のトピックを紹介しつつ、舞踏をめぐって、さまざま語り合いたいと存じます。

2018 年のゲストは中村宏さんです。中村さんはご存知のように、1950 年代から日本の現代美術の先頭を走り続けてこられた美術家です。舞踏との関わりでは、1968 年の芦川羊子第 1 回リサイクル「D53264 機にのる友達ピオレット・ノジエイルの方へ つねに遠のいてゆく風景 PACIFIC231 機にのる舞踏嬢羊子」の成立に大きな力を果たされました。公演のポスターやチラシをデザインされ、案内状に言葉を寄せられました。

そして何より、土方巽舞踏公演「土方巽と日本人」を 8mm 映像に収められ、今日では「肉体の叛乱」のタイトルをもって、舞台の貴重な記録映像として、アーカイヴをはじめ、上映会や展覧会場でもしばしば公開・上映されています。

2018 年は、1968 年から 50 年のメモリアルな年となります。「1968」は数々の展覧会や出版物で取り上げられています。舞踏にあっても、半世紀前の土方巽の舞踏を振り返りながら、この 50 年の舞踏をめぐって論議が生まれることを期待します。

中村宏さんのお話と意見交換は、午後 7 時から 1 時間を予定しています。

お問い合わせ | 慶應義塾大学アート・センター [担当: 森下・本間]
Tel. 03-5427-1621 moris@art-c.keio.ac.jp

主催 | 慶應義塾大学アート・センター、ポートフォリオ BUTOH
企画 | 慶應義塾大学アート・センター 土方巽アーカイヴ 協力 | 土方巽アスベスト館

Monday 22 January 2018 4:30pm – 8:30pm

Keio University (Mita), East Research Building 6F G-Sec Lab
Admission free, come and go anytime

Guest Speaker: Hiroshi Nakamura

Information Hijikata Tatsumi Archive / homma@art-c.keio.ac.jp (Homma)

Postcard

